

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 くさぶえ)

事業所番号	0671500288		
法人名	社会福祉法人 長井公徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	平成 26年 9月 11日	開設年月日	平成 15年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣の祭り、催し物などに出かける機会を多く持ち、畑での収穫やその収穫物で調理を通して季節を感じ、その方の生活スタイルに合った、当たり前前の暮らしが送られるように配慮しています。法人に4つのグループホームがある利点を活かして、ご利用者や職員の交流を図り、閉鎖的にならないような工夫をしています。また、職員を対象とした所内研修や外部研修への参加を奨励するなど、最新の認知症介護について学びを深める機会を持ち、介護現場に活かしていくよう努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町2丁目3番31号		
訪問調査日	平成 26年 10月 29日	評価結果決定日	平成 26年 11月 27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしい暮らしを支えていく為に、職員の思いを取りまとめた理念を事業所内に掲示している。また、職員一人一人がネームプレートに入れる事で意識付けを図り、思いを共有して実践に繋げている。会議の際にも、理念に沿ったケアが実施できているかを確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや行事への参加。地区文化祭への作品出品をしている。また、フラワー長井線での外出を企画にあげ地域との繋がりを大切にしている。企業ボランティアの受け入れや行事への地域ボランティアの参加があり、交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で委員の方に認知症の事例紹介を行い、認知症の理解や支援のあり方を啓蒙し、地域に帰ってからも広めていただくように働きかけている。4月には医療連携Nsが市民を対象に認知症についての講演を行なった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、市職員・地域代表・家族代表が委員となり会議を開催している。事業所からは、近況報告と委員の方からは、運営に対する質問や意見、地域の情報を頂く等双方向的な話し合いが行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議で市職員より、また地域包括支援センターへ出向している職員を介して市・他事業所の情報を得たり情報交換を行い交流を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人職員を対象に身体拘束をしない学習会や外部研修に参加し理解している。事業所内では玄関には鍵をかけず、入居者の行動を把握し気配りをしている。又、転倒歴のある入居者には環境を整え、常時見守りを行い自由に過ごせるような工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人職員を対象に権利擁護や高齢者虐待についての研修会実施している。職場の環境を整える為管理者を中心に個別の面談を定期的に行い、注意を払い虐待防止に務めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人職員を対象に権利擁護、コンプライアンスルールの研修を実施した。事業所内でも資料を読み合わせし学ぶ機会を作っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容の説明を充分に行い理解が得られる様に務めている。また、利用者やご家族の意向を伺い、安心して生活できるよう支援に繋げている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で3年に1度家族を対象にアンケート調査を実施し、その結果を事業所内に掲示している。また、事業所玄関内に意見箱を設置して要望等をお伺いしている。それらは、職員全員で共有し運営に反映させている。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議に出席し、職員の意見や提案を聞いている。それらの意見や提案は管理運営委員会に反映するようにしている。常に、意見や要望を話しやすい環境を作っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から管理者と会話をし、働きやすい就業環境作りに努めている。必要時には、個人面接を実施したり各自が向上心を持って働けるように個々の努力や実績を認めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の認知症介護実践者研修、グループホーム協議会の交換実習、グループホームの大会等に参加している。その他、法人内外の研修やグループホーム独自の学習会に参加し、一人一人のケアの力量を把握しトレーニングを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	置賜ブロックグループホーム協議会での定例会議や研修、交換実習などに参加し情報交換をしている。交換実習ではお互いの事業所での悩みや気付いた事等を情報交換しサービスの質の向上に取り組んでいる。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者にはホームへ見学に来て頂いたり、職員がご自宅を訪問し本人と直接話しをする機会を設けている。本人の心身の状態や不安や思いを受け止め良い関係が築けるよう務めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに来て頂いたり、ご自宅への訪問したり、また電話等で不安な事や要望などに耳を傾け、話しやすい環境づくりに努めている。今後の方向性などもご家族と共に考えながらより良いケアとなるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を踏まえ母体の総合相談センターとも相談しながら最善のサービスが提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で、昔ながらの伝統や生活の智恵や人柄に触れ、教わることが多い。職員と共に作業をする事で親密な関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時や季刊誌または電話などで入居者の状況を伝えている。必要時には、家族とも面談を行い情報を得る事で、本人にとって何が最善なのか共に考えながら支えていく関係を築いている。今年度は、その関係性を大切にし看取りケアを行った。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に毎月お墓参りに出掛ける方や地元のお祭りに参加する方もいる。また、馴染みの美容院やお店へ出掛け、関係性を大事にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が、隣り合う席になり、会話ができるようにセッティングしている。入居者同士のトラブルに対しては、職員が間に入る事で良好な関係が保てるように務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へお見舞いに行き本人の様子を伺い、必要な支援があれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者の言動や表情から思いを汲み取る努力をしている。また、ご家族から情報を得たり、入居者から話を聞きセンター方式、アセスメントを活用する事で意向の把握につとめている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決定後、ご家族よりセンター方式の(B-1.C-1.C-2.D-1)シートへ記入して頂いている。また、ご自宅へ訪問し、本人やご家族より直接お話しをお聞きし情報を得ている。入居後も、訪問されたご家族や友人との会話から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンを大事にし、その中で入居者の特技、趣味を通して関わりを持っている。出来る事、出来ない事の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用し現在のニーズを見つけ、入居者や家族の意向を確認し介護計画を作成している。カンファレンスは、今後、ご家族の可能な日に開催、参加して頂く予定である。また、3ヶ月毎にモニタリングを実施し評価や見直しを行っている。現状に変化があった際には、都度見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況、健康状態、行動や言動においても記録し、情報を共有してケアに活かす事が出来ている。その都度検討や見直し、評価をして必要時には変更をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の婦人ボランティアの方と伝統料理を作ったり、バスハイクへの同行や企業ボランティアによる事業所内外の環境整備等地域との交流を図りながら、暮らしを楽しむ事が出来るよう支援をしている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者、家族が希望されるかかりつけ医となっている。受診の際は、日頃の状況を記入した連絡表を活用し家族、医療機関、事業所間での情報を共有している。連絡表には、かかりつけ医の指示や受診結果を記入して頂いている。家族が、受診に付き添えない時や、状態に合わせ職員が付き添っている。</p>			
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人内の看護師と医療連携体制をとっている。必要時には、連絡をとりアドバイスを頂いたり、介護記録や温度板にて情報を共有、交換しながら支援をしている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際には、医療に必要な情報を医療機関に提供し、入院中の本人の状態を家族に聞いたり職員が、病室に伺い情報を得ている。医療関係者には、必要時、家族と共に面談させて頂いている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、「重度化した場合の対応に罹る指針」についてご家族に説明しサインを頂いている。入居者の状態に応じた話し合いを繰り返しながら、家族を支援している。話し合いの内容は記録し職員間で共有している。主治医、ご家族には状態報告を密に行い、その方にとって最期までより良い生活が送られる様に支援している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の職員と共に消防署へ出向き事故発生や救急時対応の訓練を行っている。新人職員には、法人内の救命救急士による学習会を実施している。事業所内でも、月1回の訓練を実施している。		/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回緊急避難訓練を行っている。事業所独自でも、定期的にマニュアルに添った訓練を行っている。近隣2地区と協力協定を結び緊急時の協力体制を築いており、合同避難訓練を実施している。グループホームでも、推進委員会の方に参加して頂き火災避難訓練を行った。より安全に避難できるようにアドバイスを頂き今後活かしている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者の尊厳や誇りに傷つけないように、常に入居者の立場に立って一人一人に合わせた声掛けや対応を行っている。法人主催のコンプライアンスルールの研修へ参加し、尊厳や誇りを守る学習し確認している。		/	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや願いを表現出来るように傾聴し、自分で選択出来る場面を作り自己決定を尊重した関わりを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、入居者の思いや生活リズムや体調を一番に配慮して希望に添った支援をしている。		/	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを尊重しながら、季節に合った衣服を選んでいる。洗顔後の乳液や髭剃り、整髪も本人の希望を尊重し職員と一緒にやって身だしなみを整える事が出来るように努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜や季節の食材を用いて会話をしながら、一緒に調理をしている。食後の後片付けも職員と一緒に力発揮、役割をもつ支援に努めている。		/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士に指導を受けながら、献立表を作成し助言を頂いている。一人一人の状態や習慣に応じたものを栄養バランスに配慮しながら準備している。水分や食事量の観察が必要な時は、食事チェック表を用いて管理支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた歯磨きの声掛けや確認、介助を行っている。週2回入れ歯洗浄剤を使用し義歯洗浄を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを使用し、個々の排泄パターンを把握し対応している。トイレでの排泄や自立に向け、職員間で連携をとりながら誘導して支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療連携看護師と連携をとり、排便のコントロールに務めている。繊維質の多い食材、乳製品の利用、リハビリ体操等日中に体を動かす事で自然排便が促されるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせた入浴を実施している。入浴拒否の場合は、声掛けの工夫や足浴、清拭等の方法で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムにあった休息や、就寝が出来るように声掛けを行っている。夜間、眠れなかった方には、一緒に会話をしたり飲み物等を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋等を随時確認しており、内容の変更や状態の変化が見られれば、記録等を通して職員全員が理解出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとにイベント、バスハイクを企画し、気分転換を図っている。また、一人一人の生活歴を把握した上で、利用者と畑で作物を収穫したりと楽しみや喜びを共有できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望があれば、散歩やドライブに出掛け、買い物では、利用者に直接食材を選んで頂くなどさまざまな外出支援を行っている。また、地域ボランティアの方々とバスハイクへ行く事で、交流を深めるよう取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自己管理の出来る入居者はおられない。家族からの希望があれば職員で現金を預かり訪問販売時等の購入や受診時の支払いなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じいつでも電話が出来るように支援をしている。また、ご家族から定期的に手紙が届く利用者には、いつでも見たい時に取り出せるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎日こまめに清掃を行ない清潔で居心地の良い空間作りに配慮している。更に、洗面所や廊下に季節感のあるもの装飾したり食席に季節の花を飾る事で居心地よく穏やかな気分で過ごせるような工夫をしている。職員も環境の一部であることを認識し、音に配慮した行動を心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にソファを置き、一人でゆったりと過ごしたり、気の合う方と会話をしたり、作業等を行うスペースとしてさまざまな場面に対応できる空間を作るよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で、使用していた馴染みの物や思い出の写真、作品を飾ったりしている。テレビを見る習慣のあった方には、居室にテレビを設置いつでも自由に見る事が出来るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口には、名前を明記し他者と区別しやすいようにしている。洗面所には、個別の棚を設けておりその中に化粧水や髭剃りなどを保管しておく事で自分で身だしなみが整えられるように工夫している。		